

2024年8月23日(金)

老球の細道 823

「オラ！ スペインへ 生が一番」⑩

・・・ユーロバスケットボールツアー紀行〈Ⅲ〉・・・

会津バスケットボール協会 室井 富仁

2020年東京オリンピックでは経済波及効果が騒がれている。海外へのシェア拡大を狙うのがトイレの陶器で有名な「TOTO」。ホテルに泊まった外国の観光客や選手たちに、温かい便座の付いたウォシュレット付きの洋式トイレを認知してもらうという。

外国に旅行すると心配なのが治安、食事、トイレである。日本の常識が外国の非常識、日本の非常識が外国の常識というパターンが結構ある。特にトイレは大きい。今まででびっくりしたのはアメリカとインドネシアに行ったときである。アメリカに行ったときはトイレの扉が小さくて、外から顔と足が丸見えで恥ずかしさ満点であった。インドネシアではトイレにトイレットペーパーがなかった。左手でふいて水で洗うのである。だから、イスラム教の国では左手が不浄の手ということで左手の握手は非常識というわけである。

今回のスペインでは、トイレ付きのバスルームのドアが閉まらなかった。無理やり閉めると自動ロックのようにあかなくなってしまう。滞在中私が1回、N先生が1回バスルームに閉じこめられた。一人きりだったらトイレに監禁だったが、二人でいたときなので外からコインで鍵穴を回して開けて事なきを得た。トイレのドアの修繕をお願いしても結局治らなかった。外国では万事がアバウト。というわけで滞在中はトイレ、シャワーはオープンのままで用をたした。私もN先生も変な趣味がなかったのは不幸中の幸いであった。

【2014年 2月9日(日)】

コーチクリニック後U-14ミニコパ大会の決勝戦がウニカハ・マラガの体育館で開催された。雨のため波止場での試合が急遽変更になった。決勝のカードは地元ウニカハ・マラガ対リアル・マドリード。体育館は朝早くから超満員。見れない人のために別コートにオーロラ・ビジョンが準備された。ゲームは大接戦の末リアル・マドリードが1点差で勝利を得て優勝。中学生とはいえナマの迫力は凄かった。ボースダンクが炸裂する。

この日を最後に夜リトアニアに飛ぶ筑波大学監督吉田健司氏(元全日本監督)の送別会を兼ねて、いつもとは違う(高級)レストランで昼食をとった。スペイン料理が盛りだくさんの上、生の地ビールがピッチャーで出てきたので誘惑に負けてしまった。吉田氏は今夜遅くフィンランドのヘルシンキからリトアニアに行き、さらに6日間バスケットボールの研修を積むという。一流コーチはタフでないと務まらない。

またもや懲りずにホロ酔いでアリーナへ向かった。大好きなビールを飲みながら世界最高クラスのバスケットボールをナマで見れる。これ以上の贅沢はないと自分に言い聞かせて気合いを入れて観戦した。決勝戦のカードはリアル・マドリード対FCバルセロナ。サッカーと共に永遠のライバル。アリーナは超満員。特にリアル・マドリードのファンが圧倒していた。観客がどよめくと私たちが座っていた場所が地震のように揺れ動く。スペインはサッカーばかりでなくバスケットボールの人気も世界トップクラスである。

試合は最初から最後まで大接戦。終了残り0・1秒までもつれ込み、結果的にリアル・マドリードが77対76の1点差でFCバルセロナを下し優勝となった。すばらしいゲームを観戦できて感動した。感動は動かなければ見つからない。燃えなければつかめない〈続〉